

第2章 都市の現況

1. 津市を取り巻く状況

1-1 位置と圏域

本市は、三重県の県庁所在地であり、北は鈴鹿市、亀山市、西は名張市や伊賀市、奈良県、南は松阪市と接しており、東は伊勢湾に臨み、三重県の中央部を横断するように位置しています。面積は711.11km²で、県内の市町の中で最も広い面積を有しています。

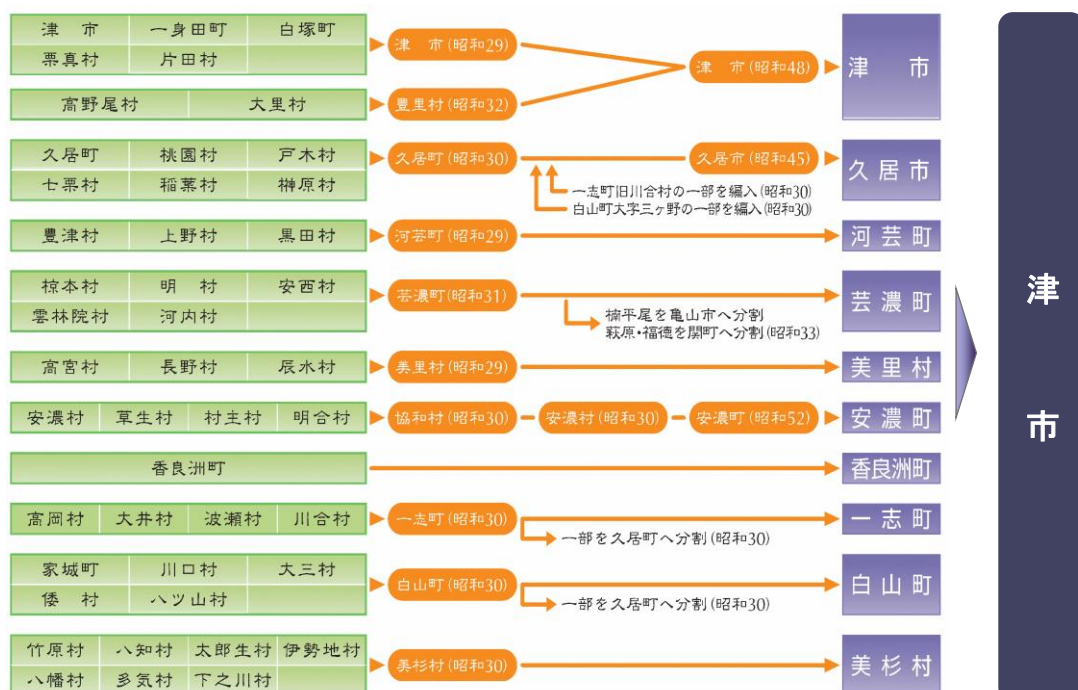


■津市の位置

1-2 津市の沿革

本市は、江戸時代には大部分が藤堂藩（津藩、久居藩）に属しており、300余りの町や村があったといわれています。

明治21年公布の市制・町村制により、本地域は1市2町53村が誕生し、その後、昭和の大合併を経て2市6町2村となり、平成18年1月1日の合併により現在の津市が誕生しました。



■津市の沿革

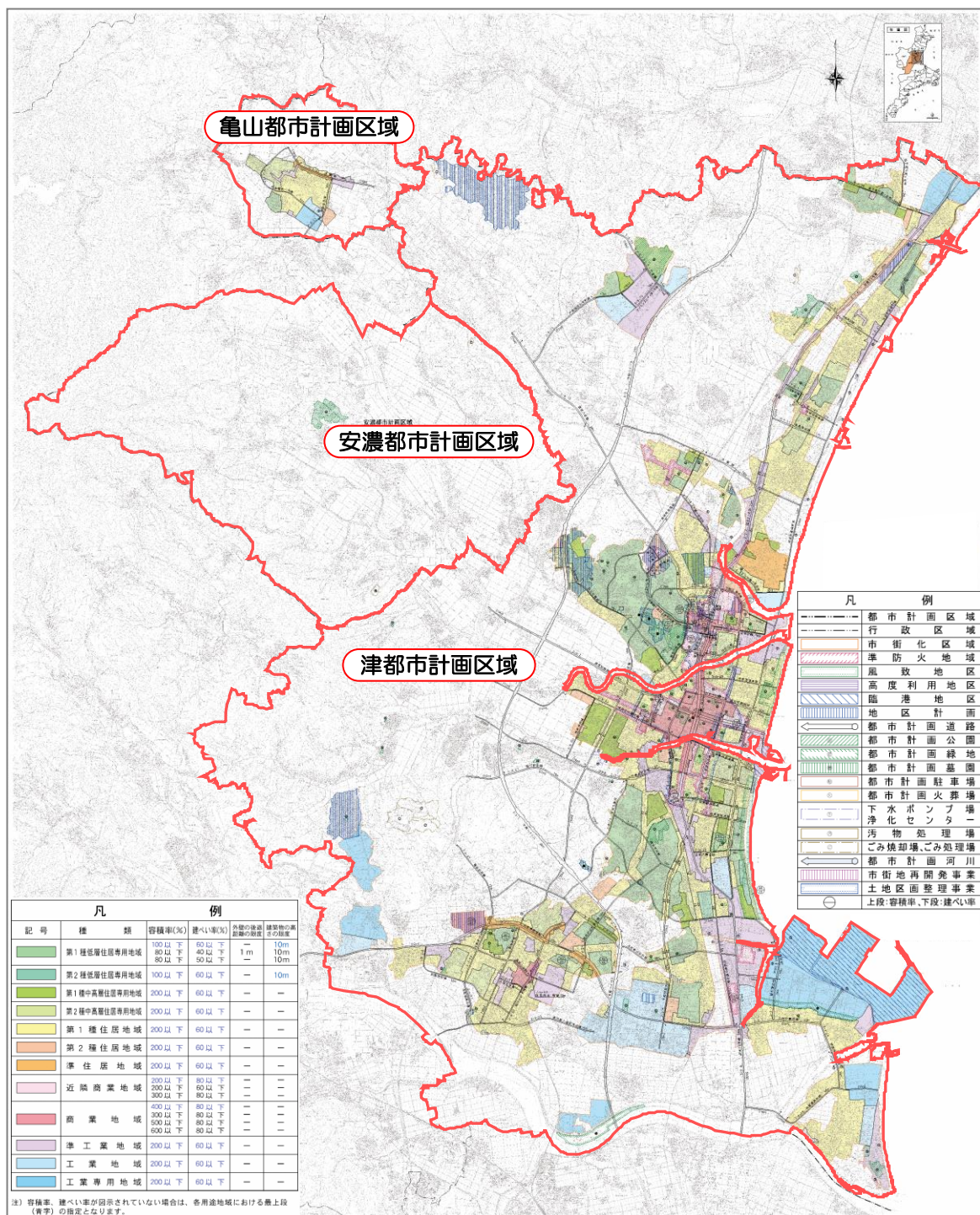
2. 土地利用規制の状況

2-1 都市計画区域

(1) 都市計画区域と区域区分（線引き）

本市の都市計画区域の状況を見ると、津都市計画区域は線引き都市計画区域、亀山都市計画区域（芸濃地域の一部）は非線引き都市計画区域（用途地域指定有り）、安濃都市計画区域は非線引き都市計画区域（用途地域指定無し）となっています。

津都市計画区域については、昭和 45 年に区域区分制度を導入して以来、約 50 年もの間にわたり線引きを継続しています。



資料：津市都市計画図（H28.3）

■都市計画区域の状況

3. 都市の動向

3-1 人口・世帯数

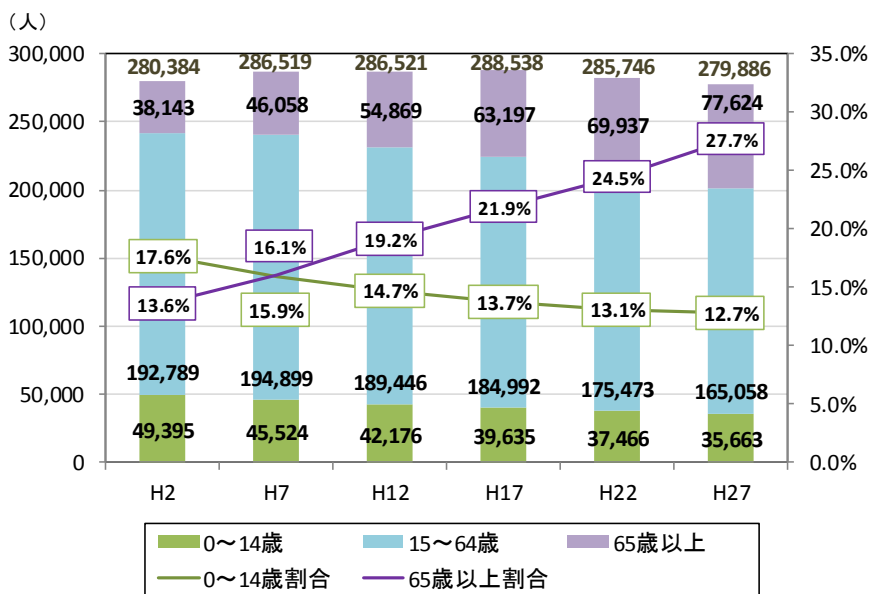
(1) 総人口・年齢別・地域別人口

国勢調査による平成2年からの総人口の推移をみると、平成17年の288,538人をピークに減少し、平成27年の津市の総人口は279,886人となっています。

年齢3区分別人口をみると、15歳未満の年少人口は年々減少し、平成27年には35,663人（12.7%）となっています。

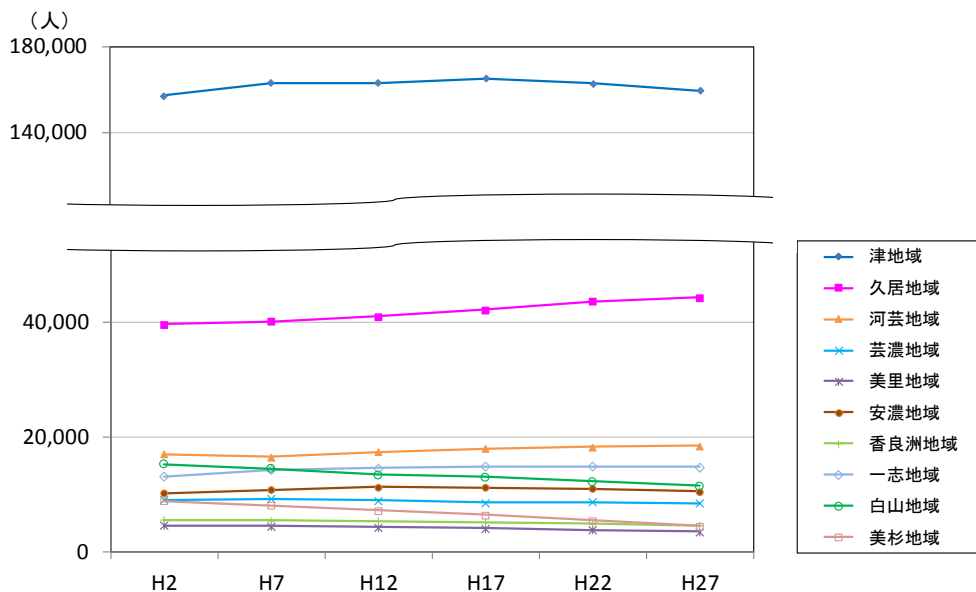
一方、65歳以上の高齢人口は年々増加し、平成27年には77,624人（27.7%）となっています。

地域別にみると、久居地域、河芸地域では増加していますが、その他の地域では減少しています。



※総人口の数値は「年齢不詳」を含むため、各年齢層の合計値とは一致しない
資料：国勢調査（H2～H27）

■年齢3区分別人口推移



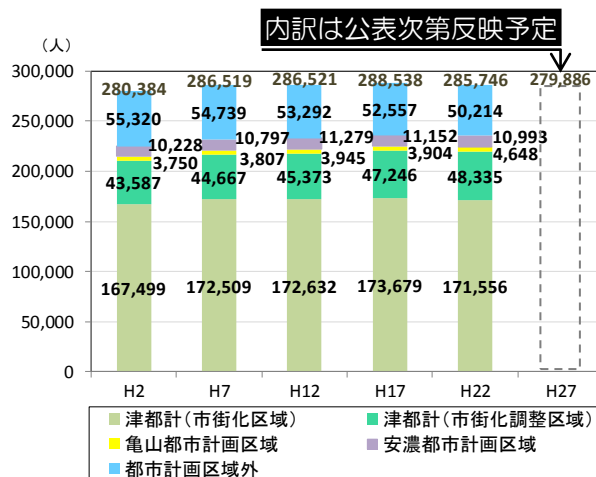
資料：国勢調査（H2～H27）

■地域別人口の推移

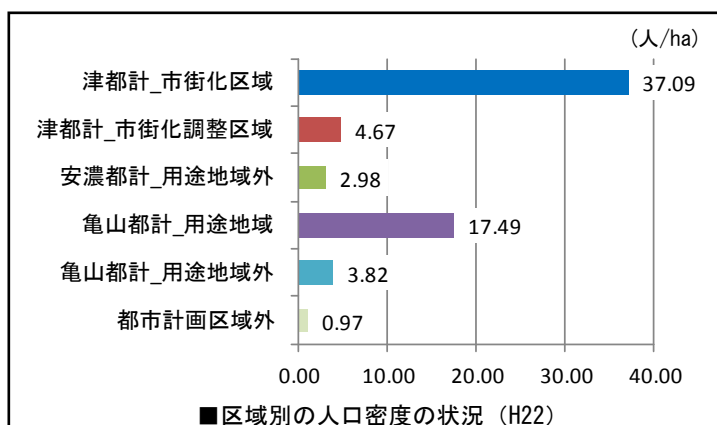
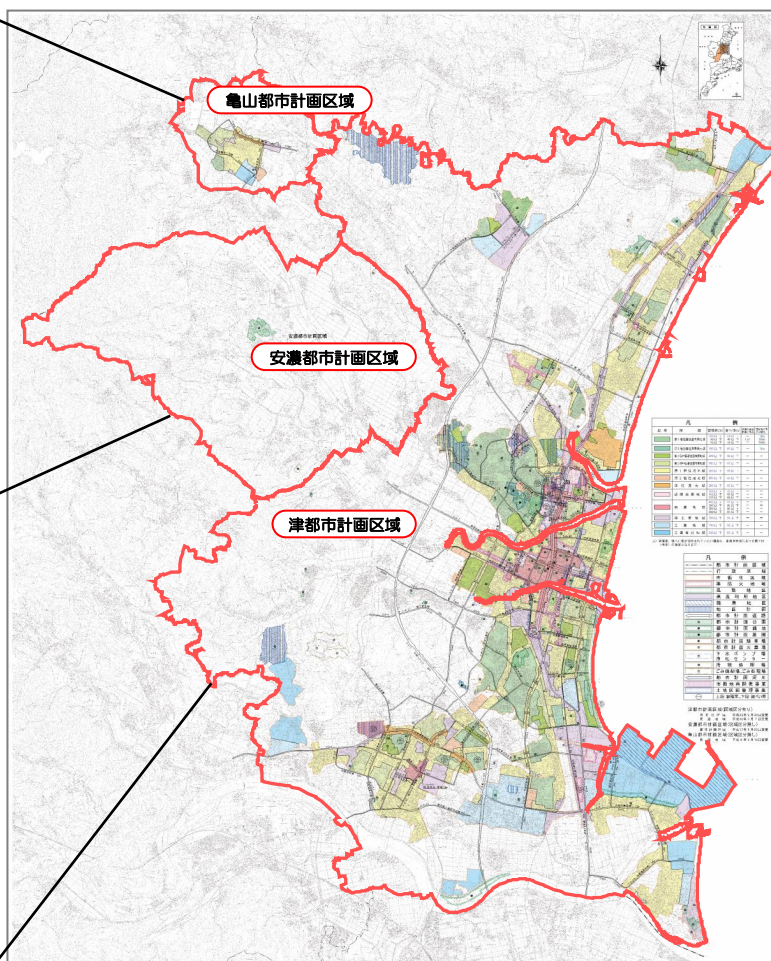
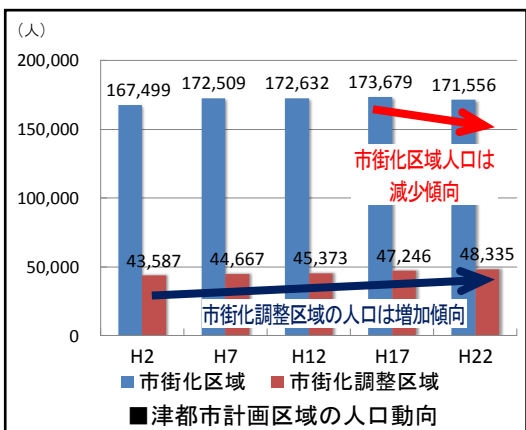
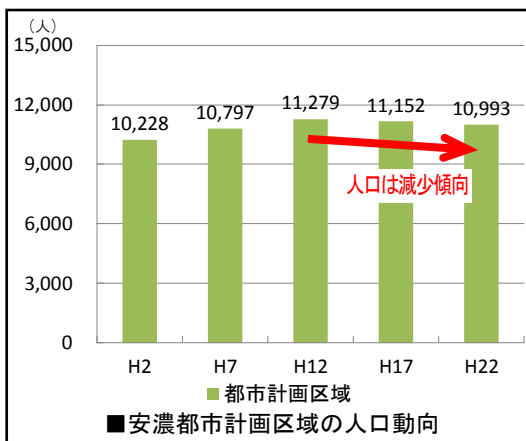
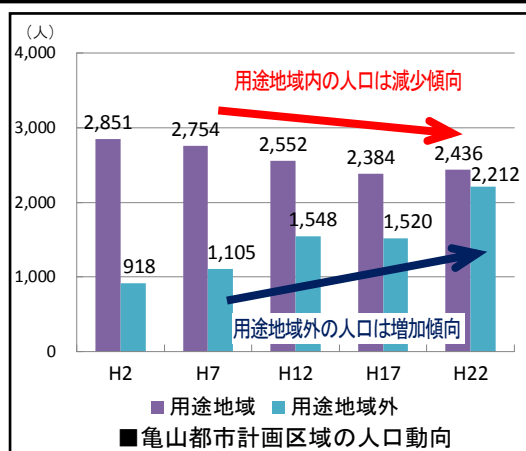
(2) 区域別人口

国勢調査による都市計画区域内の人口は、平成17年をピークにその後は減少しています。

区域別にみると、亀山都市計画区域では増加していますが、その他の区域では減少しています。



各グラフのH27 データは公表次第反映予定



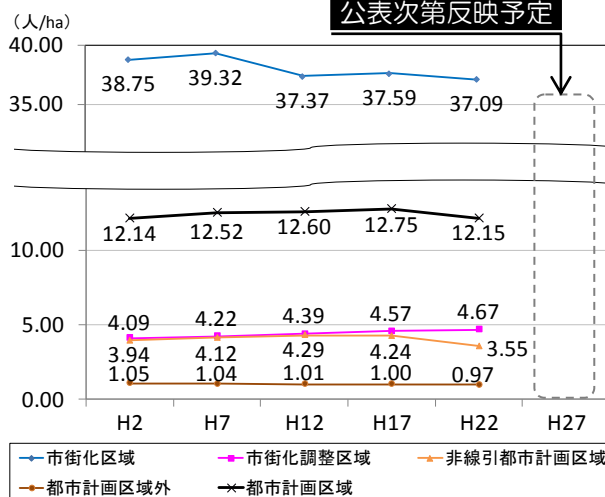
資料：都市計画基礎調査 (H24)

(3) 人口密度

平成 22 年の都市計画区域の人口密度は、12.15 人/ha で平成 17 年と比べ 0.60 人/ha 減少しています。

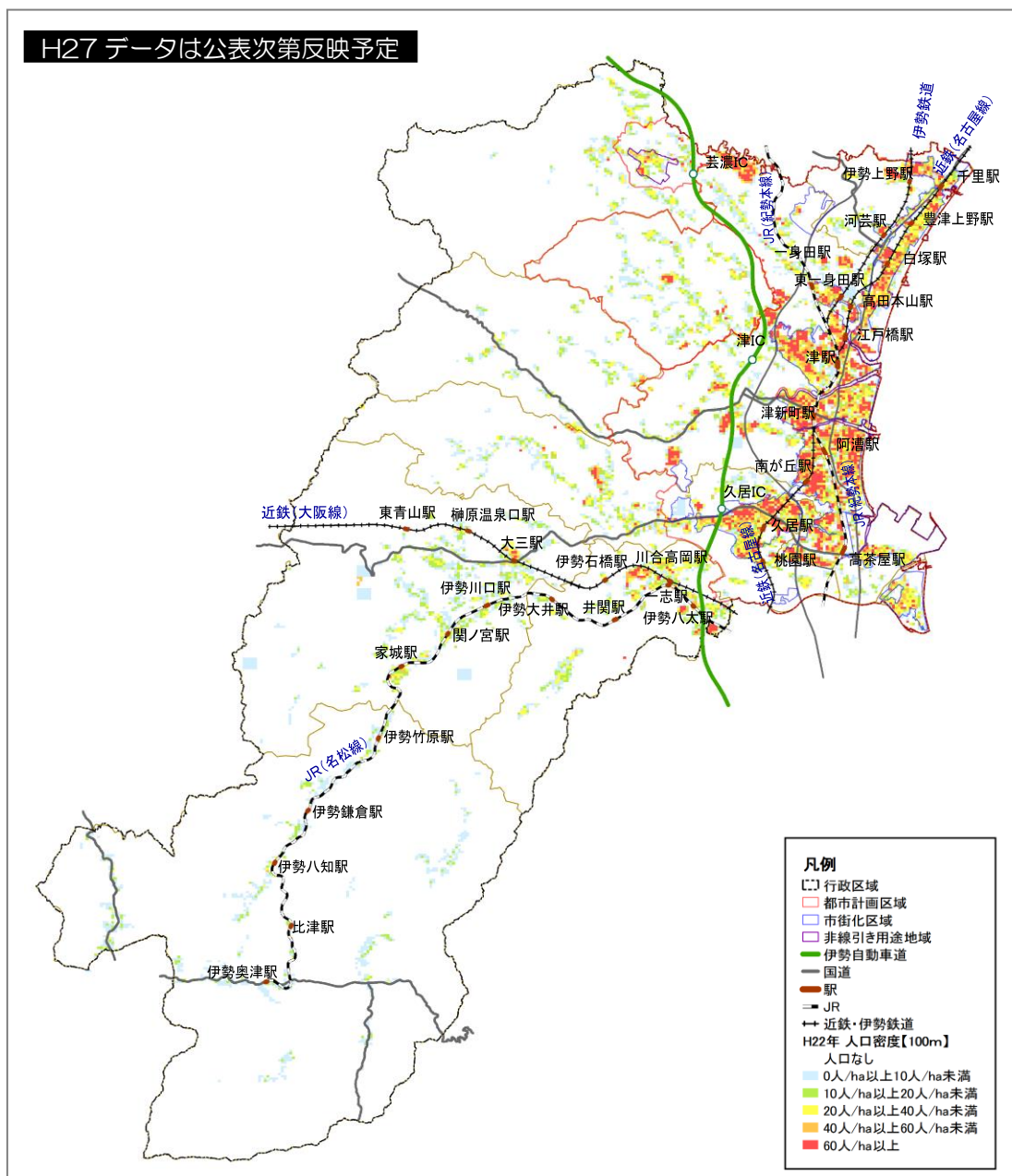
区域区分別にみると、市街化区域の人口密度は平成 7 年までは増加していましたが、平成 22 年では 37.09 人/ha と平成 17 年と比べ、0.5 人/ha 減少しています。非線引き都市計画区域でも平成 12 年をピークに減少が続いています。

一方で、市街化調整区域では増加が続いています。



資料：都市計画基礎調査（H24）

■人口密度の推移



資料：国勢調査（H22）

■人口密度の状況

(4) 世帯数

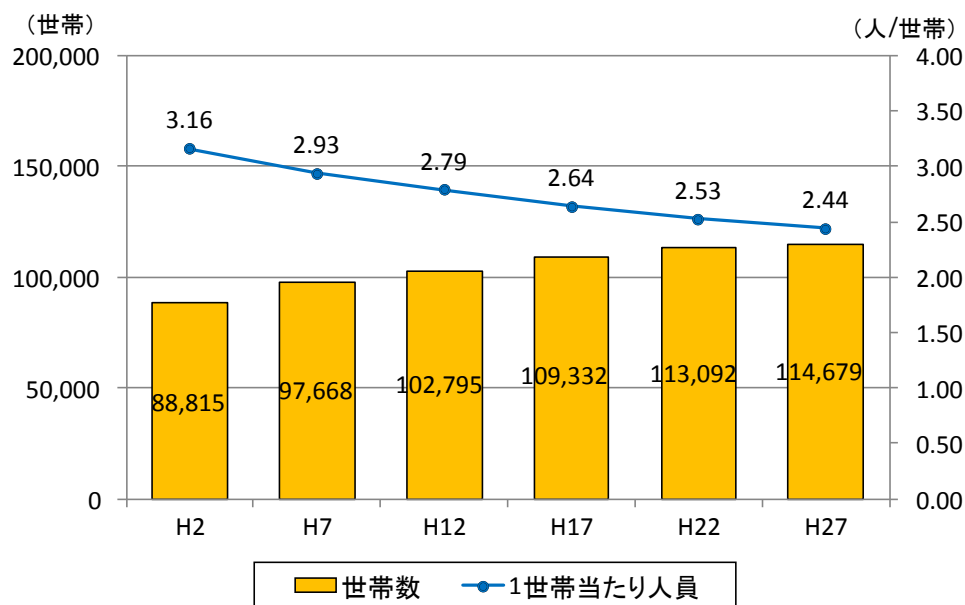
国勢調査による平成27年の津市の総世帯数は114,679世帯で、平成22年と比べ増加しています。

地域別にみると、久居地域、河芸地域、芸濃地域では、高い伸びを示していますが、美杉地域では減少が続いています。

■地域別世帯推移

単位：世帯

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
津市	88,815	97,668	102,795	109,332	113,092	114,679
津地域	53,942	59,900	62,302	66,338	67,988	68,375
久居地域	11,993	13,163	14,230	15,487	16,771	17,598
河芸地域	4,753	5,096	5,803	6,383	6,779	7,183
芸濃地域	2,445	2,497	2,572	2,728	3,026	3,121
美里地域	1,171	1,227	1,239	1,257	1,264	1,237
安濃地域	2,611	2,985	3,357	3,475	3,727	3,793
香良洲地域	1,512	1,577	1,722	1,734	1,693	1,670
一志地域	3,696	4,431	4,789	5,175	5,364	5,516
白山地域	3,884	4,018	4,147	4,226	4,198	4,136
美杉地域	2,808	2,774	2,634	2,529	2,282	2,050



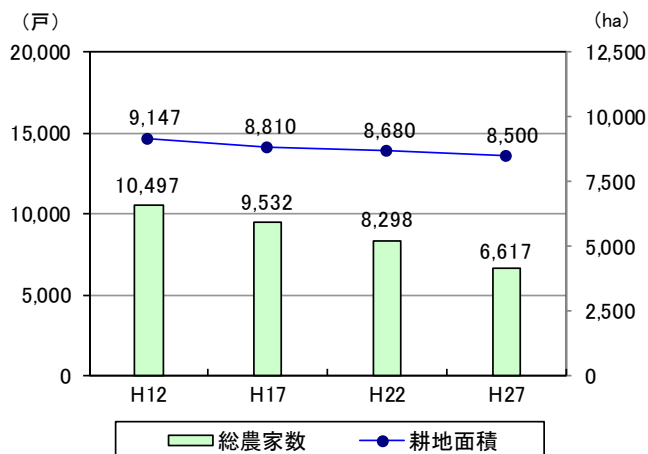
資料：国勢調査（H2～H27）

■世帯数・世帯人員の推移

3-2 産業構造

(1) 農業

平成 27 年の津市の総農家数は 6,617 戸、耕地面積は 8,500 ha となっており、総農家数、耕地面積ともに減少しています。



資料：農林業センサス（H12～H27）

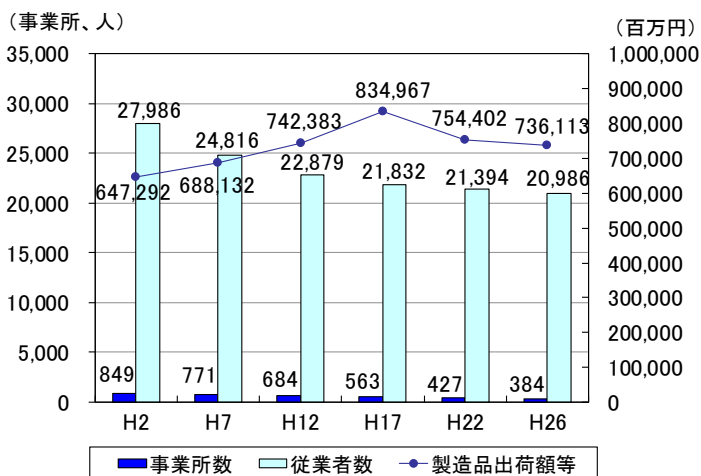
■農家数、耕地面積の推移

(2) 工業

平成 26 年の津市の従業者数は 20,986 人、製造品出荷額等は 7,361 億円となっています。

製造品出荷額等は平成 17 年がピークになっています。

事業所数、従業者数は減少が続いていますが、1 事業所当たりの出荷額は増加しています。



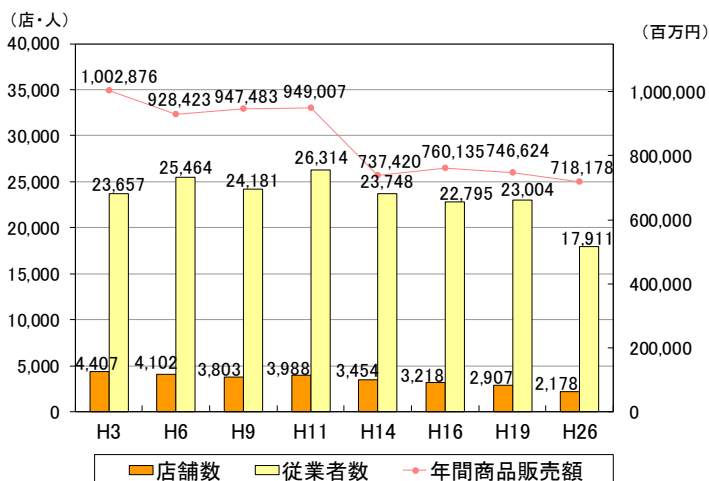
資料：工業統計調査（H2～H26）

■製造品出荷額等、従業者数の推移

(3) 商業

平成 26 年の津市の店舗数は 2,178 店で、減少が続いています。

年間商品販売額は平成 11 年までは横ばいの傾向になっていましたが、平成 11 年から平成 14 年で大幅に減少し、以降は横ばいの傾向が続いています。平成 26 年の年間商品販売額は 7,181 億円となっています。



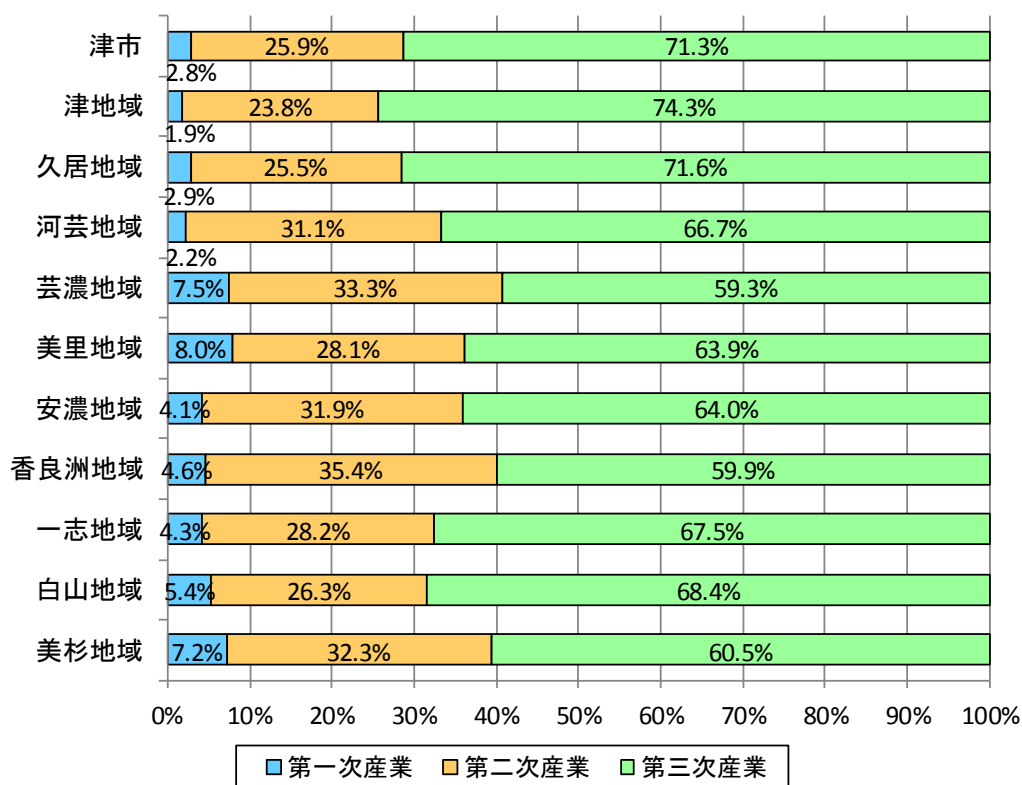
※平成 26 年調査は、平成 19 年調査までと調査対象が異なることから、同一調査として経年的な比較はできない

資料：商業統計調査（H3～H26）

■店舗数、従業者数、年間商品販売額の推移

(4) 産業別就業者数

平成22年の産業別就業者人口は、津市全体では、第三次産業が71.3%と最も多くなっていますが、地域によって、産業別就業者数の割合に違いがみられます。津地域、久居地域では第三次産業の割合が高く、芸濃地域、美里地域、美杉地域では他地域と比較して第一次産業の割合が高くなっています。

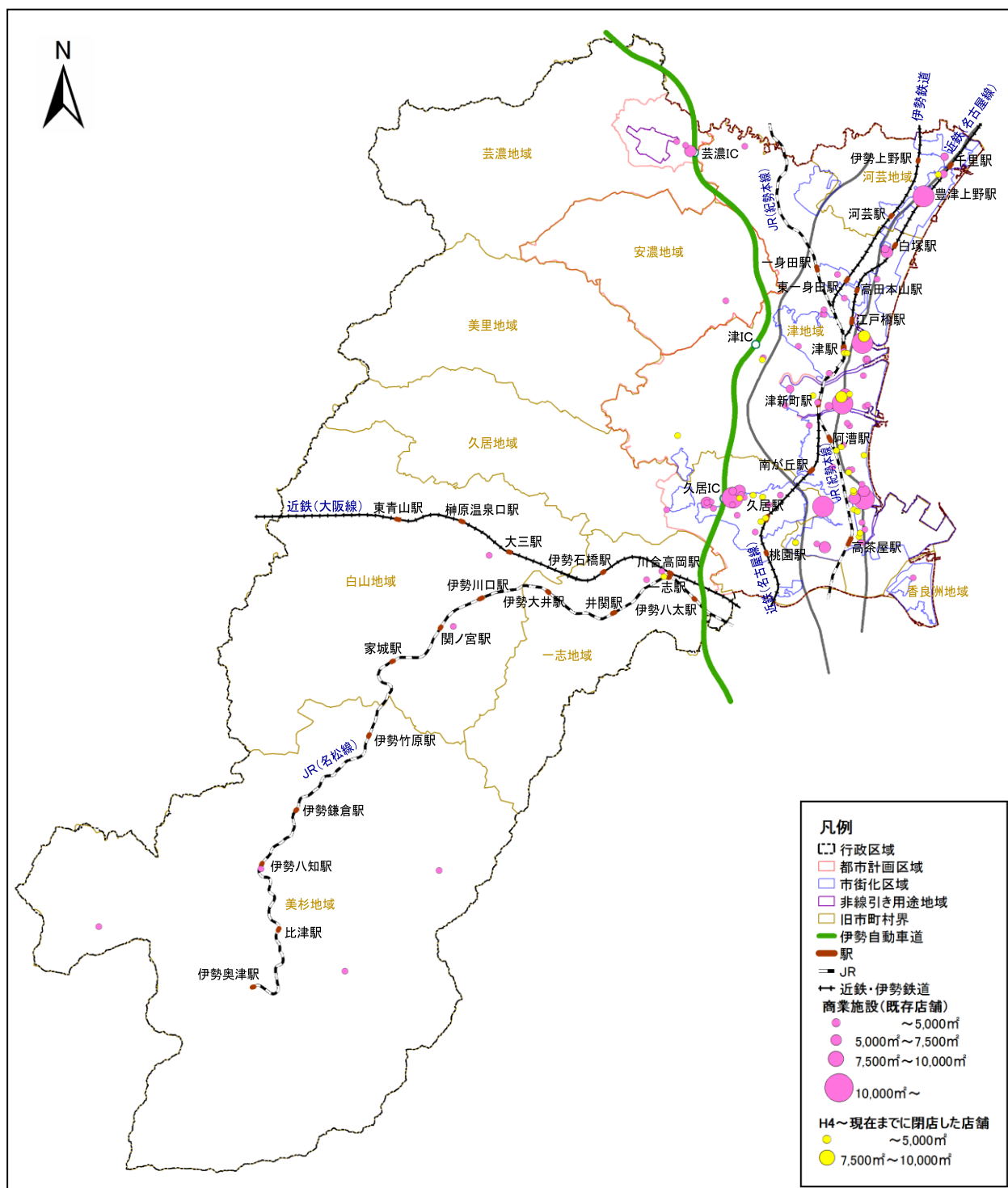


資料：国勢調査（H22）

■ 産業別就業者数の人口構成

(5) 大型小売店等の立地状況

平成28年全国大型小売店総覧等による専門店、総合スーパーなどの店舗立地状況をみると、一部亀山都市計画区域内に立地しているものの、その多くが津都市計画区域を中心立地しています。また、10,000㎡以上の大型店については、津都市計画区域においても国道などの幹線道路沿線に多く立地しています。



資料：全国大型小売店総覧（H28）及びスーパーマーケット総覧（H26）

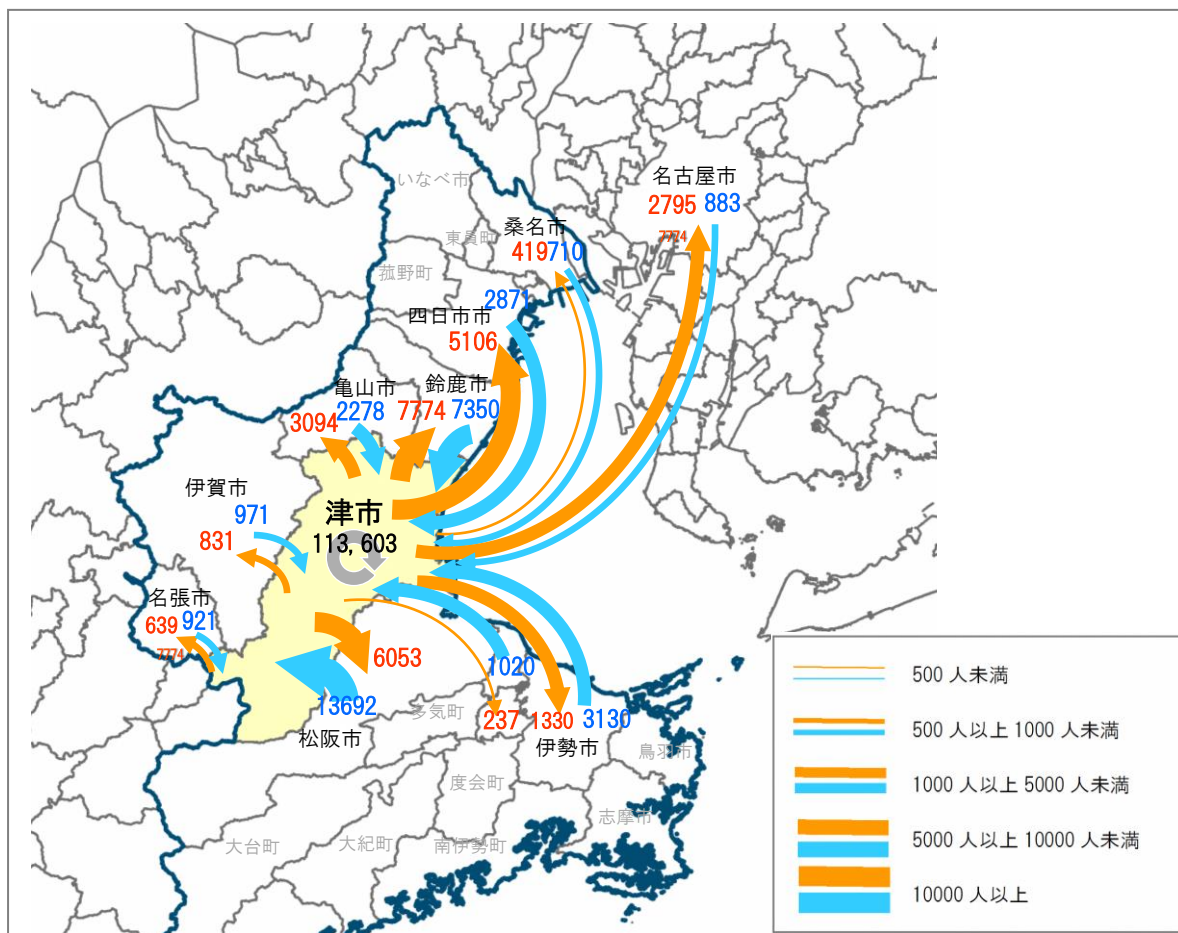
■ 大型小売店等の立地状況

3-3 日常生活の動向

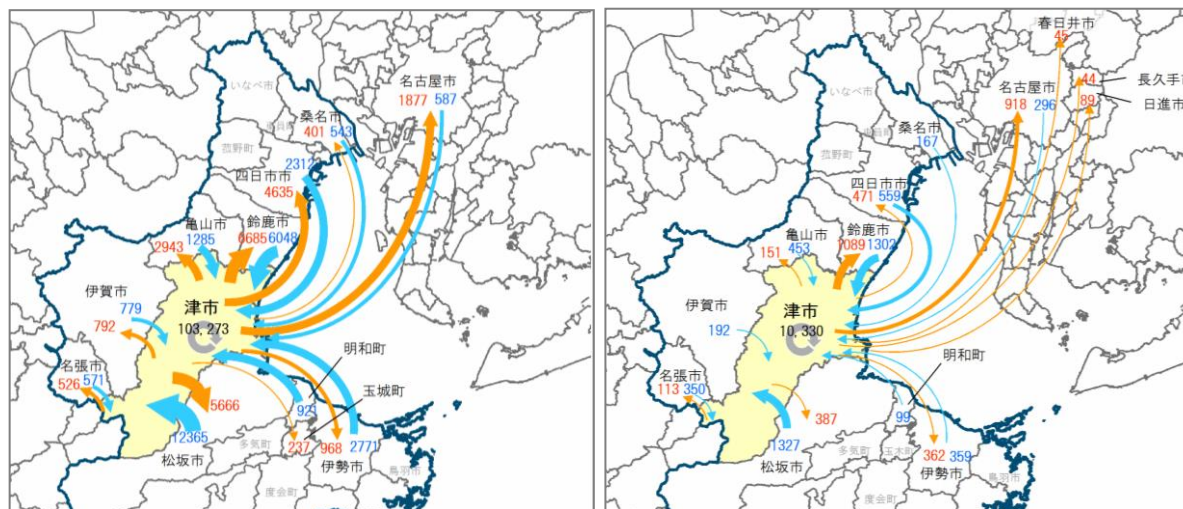
(1) 通勤・通学動向

津市の地域内外での通勤・通学における流動総数を見ると、地域内での動きが流出・流入とも8割近くを占め、市内での移動が主となっています。一方、地域外への流出は鈴鹿市、地域外からの流入は松阪市が最も多くなっており、地域間の流動については隣接自治体とのつながりが強くなっています。

通勤・通学別に見ると、おおむね似た傾向がみられるものの、松阪市からの流入（通勤 38%、通学 21%）や名古屋市への流出（通勤 7%、通学 21%）などにおいて差がみられます。



■通勤・通学動向



■通勤動向

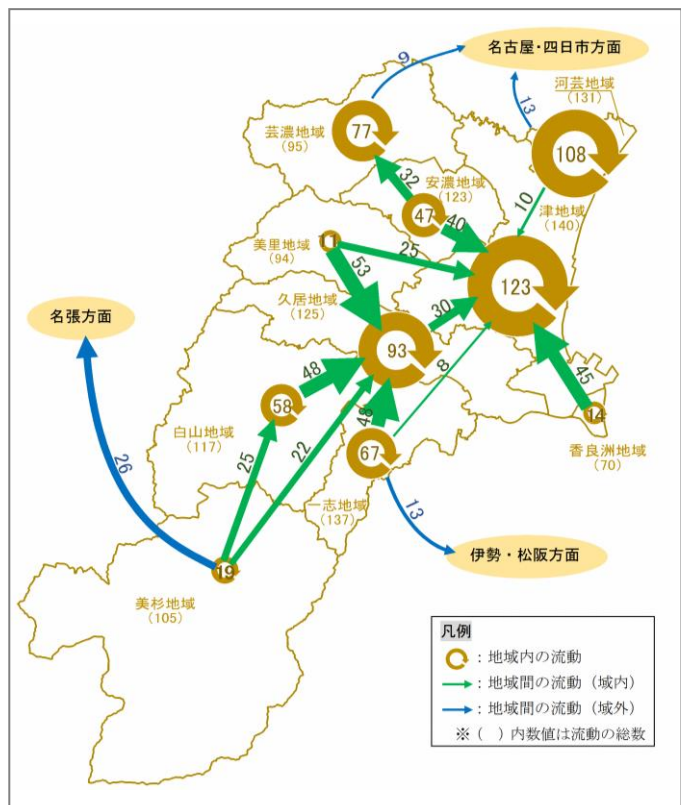
■通学動向

資料：国勢調査（H22）

(2) 地域間の移動実態 (H26 市民アンケート調査)

① 買い物の交通流動

「買い物」が目的の交通流動をみると、地域内での流動が多く、他地域に行く場合でも、隣接地域へ行く傾向がみられます。「美杉地域」については、名張方面への流動が高くなっています。

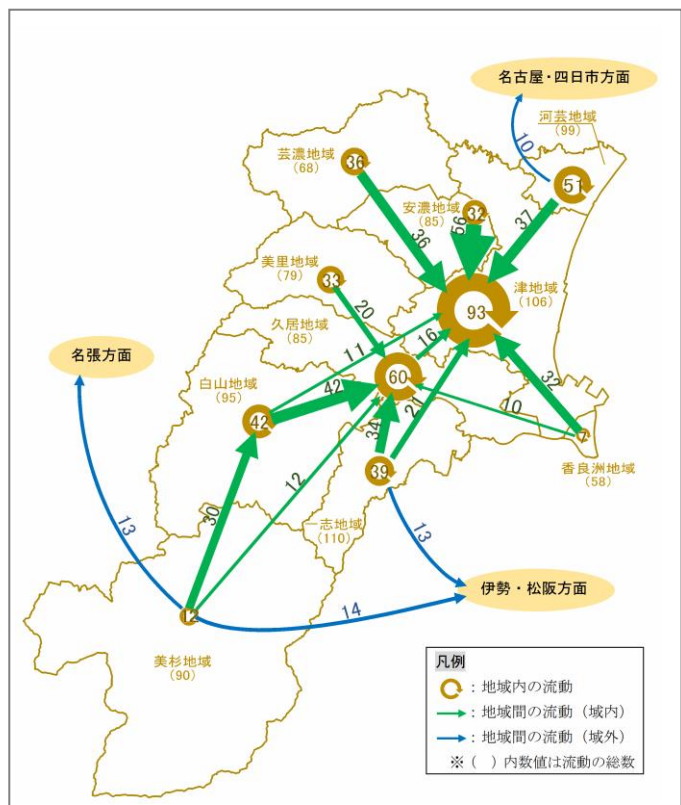


資料：津市地域公共交通網形成計画（H26）

■ 買い物の交通流動状況

② 通院の交通流動

「通院」が目的の交通流動をみると、総合病院のある「津地域」や「久居地域」への流動が多くなっています。また、「美杉地域」は、他地域と比較して、名張方面や伊勢・松阪方面など、市外への流動もみられます。



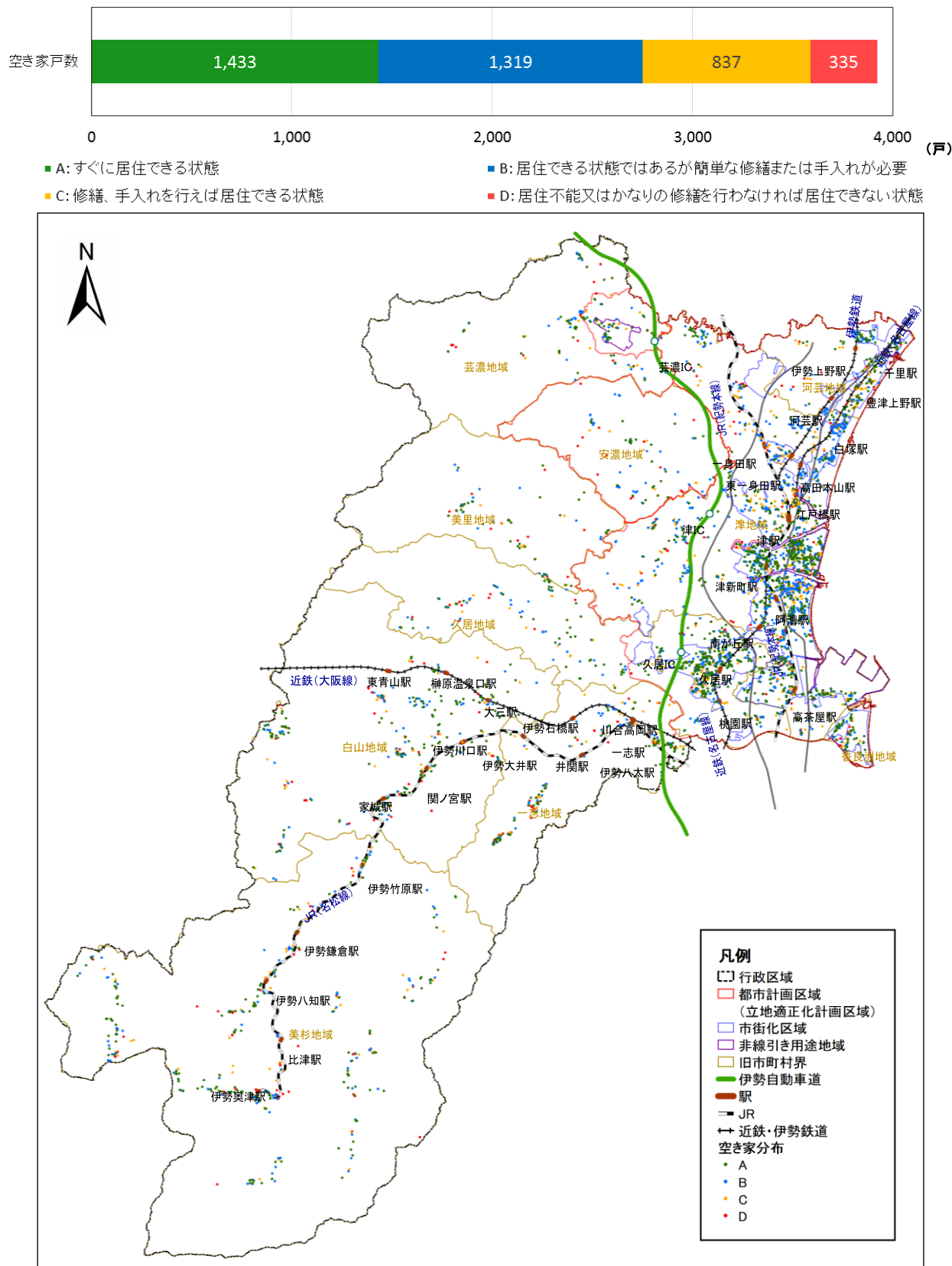
資料：津市地域公共交通網形成計画（H26）

■ 通院の交通流動状況

2-12

(2) 空き家の分布状況

平成27年7月から平成28年2月に実施した空家外観調査結果における空き家の状況は、市全体で約4,000戸の空き家が存在しており、そのうち約7割が「すぐに」又は「簡単な修繕又は手入れを行えば」居住できる状態となっています。また、分布としては、津地域に多くの空き家が分布しています。



■ 空き家の分布状況

資料：津市空家等対策計画（H29）